

# ドナウ通信

No. 46

## 目 次

さようなら、ハンガリー	糠沢 和夫	2
新年のご挨拶	森 浩二	5
解説：ハンガリーの政治状況		6
第八回日本語スピーチコンテスト入賞者原稿		13
補習校便り・児童生徒俳句集		18
随想 指揮の風景	盛田 常夫	22
20世紀を創ったハンガリー人列伝（その四） 「ポール・エルドゥシュ」	マルクス・ジョルジュ	26
掲示板		31
行事お知らせ		32

## さよなら、ハンガリー

糠沢和夫

赴任したのが一九九八年五月二〇日。帰朝が二〇〇一年二月一二日東京着になるから、在八は千日近い。外部から来て、外務省で永年苦労された人の肩車に乗って仕事をするのは、そのくらいの所が、高座じゃないが“お後が宜しいよう”だ。肩車の上で、自分だけ視界を楽しんで、担いでいる人の士気を考えない訳には行かない

とても勉強になった。もう二年若くしてやれば良かった、とも思う。今のわたしは在外の大使として最年長から五指に入る筈。折角勉強になった事を外務省および社会に役立てる時間がもう無い。ま、しかしこれも考え様だ。元気が良すぎる頃に来て、経験が無いのにぶっ飛ばしたら、下の人はもっと苦労したろう。政権中枢や本省が、これからも民

間から大使を採る気かどうか、判らない。私ののち、ここ二年は採っていない。一般論として、民間人だから優先するというのは間違いの元だと思っっている。選択の対象として、民間人も視野において比べ、予断を排して、官でも民でも、良いと思う人を使うのが国益だ。

民間から来た事について、ハンガリー政府は悦んでくれた。直接投資の誘致に役立つと思っただかもしれない。たしかに直接投資は順調に増えてくれたが、それはわたしの功績ではない。直接投資というものは、懐妊期間が長いもので、検討開始からどうしても一年以上かかる。日本から、僕の友達が随分来て、この経済や社会を見たり僕の説明を聞いて帰ったが、投資に結びついてくれるかどうか、誰にも判らない。

私の友人達も殆ど悦んでくれた。あいつさえ東京にいなかったら、世の中スッキリする、と思っただ人もい

ただろう。世の常だ。そういう人を喜ばせるのも功德だ。

昨年末に、後任大使のアグレマンをお願いしに、ハンガリー外務省に行って、のっけに「世の中ってよく出来ていて、悪い事って永久には続かない。もう私も消えて、あとはブクの外交官だ。楽になるよ」と言ったら、トマイ次官補が、破顔一笑「え、でも、それぞれ持ち味ってあるものさ。貴方がいなくなるのは淋しいよ」と言ってくれた。

### ハンガリーの存在感

一人でも多く東京の人に来てもらい、一行でも良いからハンガリーのことを新聞・雑誌に出るように心を遣った。

美人タレントなどが、ハンガリーを訊ね、温泉に浸かってご機嫌だった、という類のTV番組でも、僕は心から感謝した。ハンガリーにいる人の士気は、日本でハンガリーにつ

いての報道がある毎に上がる。少なくとも自分はそうだ。東京の友人達が、「先週XXという番組で、ハンガリーの事をやってたぞ」とEメールしてくれるきっかけに、何度もなつた。その友人の頭にハンガリー像が残る事を、私はその度に悦んだ。

企業PRを業としている人から、「いいニュースでも、悪いニュースでも、報道されるのが一番。大抵は、企業名だけ頭に残って、内容は忘れてしまう」と教わった事がある。

アメリカ駐在の若い頃、TVに出て、「ネクタイの色の方が、発言の中身より大事だ」といつも注意されたものだ。うん、今考えてみると、あれって、どーせ、日本の立場なんか、碌に中身がねーんだからさ。ニコニコしてればいいんだっつーの」という意味であつたか知らん。

それはともかく、ハンガリーの事が日本で話題になってくれることが、任地の「存在感」(翻訳し難い!)を

高めるし、企業でも本社の人頭が一日一〇秒でもこつちを向いてもらう事が、わたしには嬉しい。

#### 大統領訪日のあとさき

首脳の往訪はそういう意味で有り難い。私は、赴任前後「一社でも日本から投資が増える方が、日・八の実質関係を深めるのにな」と効果がある。あまり首脳の往訪に精力を使うのは、「どうかな」と馬鹿な意見を言つてたが、東欧課の覚田さん(その後、省内一回り人事で、ハンガリーから手が離れたけど)が、「報道量も多くなるし、首脳の往訪は大事」と僕を諭した。本当に彼女の言う通りだった。

大統領訪日の一週間前に小淵首相が倒れた時は慌てた。ハンガリー側も、「お取り込み中の所に行っちゃ悪くないか」と聞いてきた。私は「中止は駄目だ。首相は替えがある。国は続く。陛下の夕食なども掛け替え

が無いものなんだ」と即答した。訪日は決行された。

小淵さんが僕を任命した時にはまだ外相だったが、大臣室近くの任命式で、雑談で私に「おつきい投資を二つくらいやってやれば、ハンガリーは悦ぶぞう」と言つたのを思い出す。「それで、勲章決まりだな」と言葉を継いだのだった。六月に大統領が小淵前首相弔問に公邸に来られた時も、それを思い出した。亡くなった人の軽口つて、ちよつと微笑つて涙するように出来てる。

実は、大統領訪日前の二月、東京で在欧州大使会議があり、小淵首相と大使グループとの会見があつた。首相は某閣僚の失言による緊急人事に追われて、少し遅刻して来られた。各大使が任地事情を一分ずつ略説する中で、某有力大使が、政情説明にかぶせて、「ま、政治のことだから、一瞬先は闇ですけれど」と付言した。随分直截に響く事を言うなあ、と思

って全員が小淵首相の顔をチラッと窺ったが、かすかに苦笑されただけだった。上司の無い地位の人は、孤独なものなのだ。私からは「四月に国賓としての大統領訪問が予定されているので、是非宜しく」とお願いしただけ。

替わった森総理は、首相になってすぐで、仮普請中と言う感じだったが、初体験の国賓応接に気を入れてやってくれた。早い機会を掴んで、是非日本からの総理、外相の訪問を實現し、出来れば「賢き辺り」にも、この地を踏んで頂きたいと願う。

皇太子殿下は、私の赴任挨拶の折、「イギリス留学の帰りに、東欧国を廻りましたが、ハンガリーはその頃から、雰囲気は断然明るかったですね」と鼓舞して頂いた。皇后陛下からも激励され、皇室って国民に気を遣ってるんだなあ、と思ったものだ。日本の皇室は、お会いする外国人が皆深い印象を受けて帰られる。皇族

のハンガリー訪問が實現すれば、日本・ハンガリーの友好関係を大きく前進させるだろう。

皇后陛下の文章力は、外国の同地位の人と比べてもかなり上だ。孤独が磨いた潔さ、とでも言うか、凜とした所が御製の和歌にもある。懐刀を心に抱いて雲上に昇った民間人の気位が、皇太子妃にも備わっている。三文記者には判らなくとも、外国の至上の人には、却って判るもののように思う。

#### 洪和辞書

言葉は共同体の魂だ。魂の行き交う橋となる辞書はもう四合目まで来た。日本語スピーチ・コンテストの参加者に、辞書が賞として手渡されるのを夢見る。このプロジェクトがうまくいくように、現地に残る皆さんどうか宜しく頼む。出来たものを一冊買って、真面目で貧乏な青年少女で辞書が必要な人へ上げて欲しい。

#### おわりに

十年以上前、アジア開銀総裁（日本人）が神父さんに「職掌上、いろんなアジアの小国にいつて幸福な国になる道を説いたが、実は自分は幸福を知らない。だから、いまわの際に職業人として神様に報告する自信がない。が、私人としては神様の目を見て報告できる。だって家庭の事、子女の事では真摯に苦しみ、心を尽くしたから」と告白した。セイコーの服部一郎さんが亡くなって、告別の折りに粕谷神父がされた話だ。

僕も、幸せは点と点としてしか知らない。やはり線にも面にもならない。でもハンガリーについては、神様に「僕としては、一生懸命やっただんです」と言える。そう言える気にさせてくれた国、勇気を刺繍した歴史の国、君は僕に優しくかった。ハンガリーよ、心から有難う。僕はいま、熱い熱い手を挙げて礼を送る。さようなら。

## 二 一年を迎えて

日本人会会長 森 浩二

二 一年という言葉で連想する事は何かと言えば、嘗々と払い続けたきた住宅ローンの完済する記念すべき年である事、そしてやはり“二

一年 宇宙の旅”という映画です。

この映画を見たときの衝撃は今でも良く覚えています。科学の進歩の素晴らしさ、その科学の発展が人間をどこに導くのかという漠然たる不安、そして誰もが予想し得ない未来の到来等々、見るものに様々な事を考えさせる私にとっては極めて示唆的、かつ啓発的な映像でした。

この印象深い映像が封切りになつてから既に三十数年が経過し我々は実像の、現実の世界で二 一年を迎えています。木星への飛行こそ実現はしていませんがテクノロジーの

発展には予想をはるかに越えるものがあります。タバコ一箱大の携帯電話で世界中とオンラインの会話が出来る、email も送れる（これは日本だけかな）、私には創造も出来なかったレベルに到達しています。

一方でコソボ紛争は記憶に新しく、また、日本人中年男性の自殺が増加傾向にあるという憂鬱なニュースもあり気になるところです。物質的な豊かさ、精神面での豊かさ、いつの時代もバランスを取りながら満たしていく事は簡単ではないという事でしょうか？

遠く日本を想いながら、日本とは違う可能性を秘めて、バランスを取りながらけなげに前に進んでいるハンガリー、誇りを持って一歩一歩理想に近づいて欲しいと想います。

ハンガリー（というよりはブダペストかな）の発展にほんの少しでも寄与できれば、或いは、結果を残す事が出来れば二 一年には充実感

を持ってハンガリー駐在を振り返る事が出来るような気がします。ちよつと大袈裟ですが可能性を信じて、二一世紀の第一歩を踏み出そうと思えます。

## 解説：ハンガリー政治状況

### 人気凋落のトルジャン政権

ハンガリーの政局も動揺している。オルバン率いるFIDESZとトルジャン率いる小地主党の実質二党の連立政権だから、もじつてオルジャン政権。森政権と同様に世論調査の政権支持率は下がり続け、連立少数与党の小地主党などは選挙がおこなわれると議席が確保できない5%ラインを下回っている。あれもこれも元をただせば、身から出た錆。森政権の不人気理由と同じというのも比較政治の視点から面白い。

初めから小地主党に政権担当能力がないのは分かっていた。しかし、FIDESZとしては社会党に頼らない政権を樹立するのに、小地主党との連立は必要悪だった。

政治は金なり。この格言はハンガリーにもぴたり当てはまる。ハン

ガリーの連立政府は、連携する政党間で省庁の管轄を分け合う。省庁に付く国家予算をそれぞれの政党が支配するという構図である。相互に干渉されない管轄省を確保することで、与党となるうま味が吸えるようになっていく。

### 小地主党の省庁私物化

小地主党が確保したのは、農業・地域開発省、環境庁、運輸・通信相、国防省の四省。小地主党の環境省支配が決まった途端、環境省から有能な専門家が流出し、代わって小地主党の政治家や学者が主要なポストを固めた。環境大臣ペーは政治家としてもまったくの素人かつ無能で、学者としての常識も疑われる人物。大臣になってから、自分の所属している大学の研究室プロジェクトへの資金援助申請を、環境省や農業・地域開発省に提出するという音痴ぶりだった。管轄業務に関係のない物品

の購入などが暴露され窮地に立ち、トルジャン党首もしぶしぶ大臣の交代を認めたのが、二〇〇〇年春。

新しく大臣に就任したリゲットヴァーリは、なんと「トロイの木馬」だった。新大臣の任命が終わったところで、実はリゲットヴァーリが一九九〇年の総選挙で社会党から立候補した人物だと分かった。トルジャンは後悔したが後の祭り。それほど小地主党に人材が不足している。

有能な新大臣は二年弱にわたる小地主党支配の環境省の内部監査を実行し、次から次へと不明朗な予算支出を暴露した。小地主党幹部の省予算の横領、付属研究所長の予算の無駄使いなどが、連日、新聞・テレビで報道された。付属研究所の清掃のために、月百万フォリントのお金が小地主党の政治家が所有する会社の流れにいたり、マリアレメテ教会のカントールが自分の〇〇を出すために研究所予算から支出するなどの事

実が明らかになった。そのそもそのような人物が環境省の付属研究所長になることがおかしいのだが、とにかく小地主党に人材がない。私が払っている多額の所得税も、こうやって小地主党の連中に無駄使いされているのかと思うと、やりきれない。

これに慌てたトルジャンは、自襟を正すというのではなしに、リゲットヴァーリの更迭を画策した。これが日本と違うところ。彼の言い分が面白い。大臣は省内の犯罪を捜査・立件するために居るのではない。リゲットヴァーリは大臣の仕事を適切に行っておらず、検察がおこなうような仕事をおこなって不適當な人物だとし、オルバン首相に更迭を進言した。本末転倒とはこのこと。本来は党の責任者としてトルジャンが大臣を辞退し、党の再生に専念するというのが常識だが、少数与党のFIDESZはこれを飲むしかない。オルバン首相は渋々この更迭を了解し

た。一二月一日付けでリゲットヴァーリは大臣を下りることになった。この直後の世論調査で、小地主党の支持率が三%と過去最低の水準に落ち、FIDESZの支持率も社会党を大きく下回ることになった。当然の結果だろう。

#### 青ランプの使用実態

小地主党の不始末はこれに留まらない。すでに国会議員二名が公金横領・恐喝・詐欺容疑で捜査・起訴の対象になっている最中に、運輸・通信大臣が交通事故を起こした（一月）。ハンガリーの公用車の事故や事件の多さは良く知られている。運手の仕方が乱暴だというほかに、公用車そのもの数が多すぎるのではないだろうか。オルバン首相の子供を習い事へ運ぶRVS車が、運転中に強盗に会い、車が奪われるという事件があった。このRV車も公用車という。いったい何台の車が公用車になって

いるのだろうか。盗難にあった公用車も多い。今の連立政権が成立してから、大臣が使う公用車の盗難数は一桁では済まない。それもアウデイのA6やA8タイプの高級車だ。大臣が私的に利用する公用車もあり、スポーツ大臣のドイツ車も、車を盗まれていた。運転手の不注意で駐車中や車庫入れの最中に盗まれるようだが、こんな話は発展途上国並だ。

さて、運輸・通信大臣ノグラデーイはバラトン湖沿いの道路を一三〇キロ以上のスピードで運転させ、トラバントに側面衝突した。トラバントの運転手の青年は間もなく死亡し、同乗していた女性も数週間の治療の甲斐もなく死亡した。大臣もヘリコプターで病院に運ばれる怪我だったが、二つのことで非難を浴びた。

一つは、大臣はヘリコプターで運ばれたのに、青年は車で運ばれ病院に着いて間もなく息を引き取った。大臣と同じようにヘリで運び、もう

少し速く処置していれば、一命をとりとめたかもしれない。

もう一つは、公用車の青ランプの使用違反。公用車が青ランプを点滅されたり、サイレンを鳴らす場合には、その要件を満たす必要がある。しかし、とくに急ぐ理由のないのに、公用車が青ランプを点滅させて移動することは禁じられている。

この事件の後、青ランプの許可実態が暴露された。SZDSZのクンツ議員団長は「子供が乗車して青ランプで走っている車を見た」から、多分、かなり恣意的な許可の出し方がなされているのではないかと疑問を呈した。パトカーに女房を乗せて走るのはそれほど珍しいことではないから、ありうる話だ。案の定、各省庁の局長連中がこぞって青ランプの付けているという話が広がった。

そうこうしているうちに、一月二四日付けの週刊誌 *Elet es iradalom* に、「青ランプ (kek feny)」という

記事が出た。オルバン首相が首相府顧問の一人の青ランプ申請に許可した書面、その許可にもとづき閣僚会議から警察本部長宛に出された許可願いのコピーが掲載された。後者の申請書には、手書きで、「首相が許可しているのだから、この書面を検討する必要はない」という注意書きが書き込まれている。

もう一つのコピーは、最近任命されたばかりのポルト検事総長が、行政担当の検事総長次席の一人に申請した青ランプが却下されたことにたいし、再度、警察本部長に宛てた申請願いが掲載されている。検事の捜査において青ランプの使用は不可欠だから、許可して欲しいと。しかし、検察庁の行政担当検事総長次席は捜査を担当することはない。

この書面のコピーが流れたことで、警察本部はコピー流出の捜査を開始すると宣言した。そういえば、ポシユタ銀行のVIPリストが日刊経済

紙 *Vilagazdasag* に掲載された時も、銀行機密の遺漏の容疑で編集局を捜査した。ハンガリーでは、事の重大さを問うことなく、文書流出の責任を問う。当該問題の解明をきちんと行ってからにしてもらいたいものだ。

### トルジャン邸の建設騒動

小地主党への批判を決定的にしたのは、トルジャンが一二区に建設を進めている邸宅だ。三階建て、エレベーターとプール付きの邸宅の建設が進められている。社会党政権時代に、トルジャンはホルン首相が建てた自宅の資金源を明らかにせよを迫ったことがあり、ホルン首相は記者会見を開いて、資金の出所を説明するはめになった。ところが今度は、トルジャンがその役に回った。

それというのも、国会議員には資産公開義務があり、二年前の議員当選後の公開では、トルジャンは二区にあるアパート一〇〇平方の住居を



妻と共有のほか、ソ連製ラダー一台を所有するという白々しい報告をおこなっていたからだ。いつたいこの資産でどうやって数億フオリントは下らない邸宅が建設できるのかと、連日、テレビや新聞が騒ぎ立てた。

トルジャンの言い分はこうだ。

「自分はスター弁護士だったし、妻はオペラのプリマドンナだったから、その程度の資産を稼ぐのは訳もなかった。ただ、公表した分が少ないのは、泥棒や強盗の標的にならないためだ」とテレビカメラの前で臆面もなく主張した。厚顔無恥とはまさにこのことだろう。皆あつげにとられた。いつたいトルジャンの女房はこのオペラ歌手だったのか。トルジャンはいつスター弁護士だったのか。女房はペーチ出身だが、ペーチにオペラハウスはない。劇場で歌を歌っていたのだろうが、田舎の劇場で得られる収入など、高が知れている。ポピュリスト・トルジャンの弁明は、

いつもこの程度のもので、国会よりも Veszthaz が似合う役者なのだ。

この一件で後から周知されたことだが、国会議員の資産公開には公開部分と非公開部分があり、議員はどの資産を公開するか選べるというのだそう。これではいつたい何のための資産公開か分からない。オルバン首相は、この制度は社会党政府が作ったのだから FIDESZ に責任はないという。ともかく資産公開法が改正する手続きに入ったのは、一歩前進と評価すべきだろう。

年末になり、国会ではトルジャンの資産形成に利益誘導による資産形成の疑いがあると調査委員会の設置を決定した。トルジャンも野党議員の資産形成を問うことで反撃の姿勢を見せている。少なくとも、国会議員による資産形成の実態の一部が明らかになりつつあるのは興味深い。

## オイル・ゲート

二〇〇〇年のハンガリー国会を揺るがしている事件の一つに、九〇年代初期の石油密輸事件がある。その解明のために国会に二〇〇〇年に「石油委員会」が設置された。委員長は小地主党のパラグ・ラスロー。彼はなかなかの頑張り屋で、経済的な利益を追求する他の小地主党の政治家とは一線を画する貴重な存在だ。

石油委員会はハンガリーの石油自由化以後に急成長した石油マフィアの実態を解明するために設置されたもので、当初から政治家や国家機関（警察幹部、税関幹部、地方警察幹部）の関わりを明らかにすることが暗黙の了解だった。この委員会で二つの爆弾証言がおこなわれた。

一つは石油マフィアのメンバーだったノグラデー（運輸大臣とは別人）の証言で、もう一つは特別捜査官で「闇の帝王」と呼ばれた人物の証言である。双方の証言には、多く

の政治家の名前、全国および地方警察署長、税務署長の名前が出てくる。ノグラデーの証言には眉唾のところもあるが、かなりの政治家や官吏がかかわっていることは間違いない。これにたいし、頻繁に名前が出されたピンテル内務大臣（前政権で警察庁長官）がパラグ委員長を名誉毀損で告訴する事態にまで発展した。社会党の前副委員長のチンタラン・シャンドールも二つの証言に頻繁に出てくる名前だ。彼などは、一〇年前までは、SDSの公営住宅に借家住まいする労働組合幹部だった。今ではローマイフルドゥーに豪邸を構える身分になっている。

てこないで、得るものがない。政府だけでなく、検察もやる気はない。ポルト検事総長などは、ろくに調べもしないうち、政治家がかかわっている証拠はないなどと宣言する始末だ。そんなに簡単に言える事柄ではないはずだ。疑惑の政治家といつしよに委員会に呼ばれ、政治家と談笑している光景は、まさにハンガリーのだ。いったいこの国には国の将来を想い、正義と公正のために闘うという青年はいないのか。

#### 政治家の世代交代

日本では四人組とか五人組というような発展途上国並の政治家支配がおこなわれているからあまり大きなことは言えない。少なくともハンガリーでは青年が政治の実権を握ろうとしている。そこは評価したい。しかし、オルバン首相率いる FIDESZ には失望した。朱に交われれば赤くなる。学生運動家だったオルバンも、

今や汚れた政治にたつぷり浸かっている。FIDESZ から若さや清新さがなくなった。正義と公正のために闘わない若者に魅力はない。

SDSZ は一二月の党大会で、ブダペスト市長のデムスキーを党首に選び、この党の首相候補として二〇〇二年の総選挙に向かう。ここでは少なくとも、世代交代がおこなわれた。

複雑なのは社会党だ。若返りが二〇一〇年の課題だが、有力な若手が見あたらない。前政権時代の社会党自身の腐敗を批判し、新たな時代を担うリーダーとなる青年が見あたらない。ホルン首相の後を継いだコヴァチは、ネーメット（旧体制最後の首相）登場までの繋役と見られていたが、意外と党内掌握に自信を持ち、ネーメットに譲る気持ちはない。

他方、社会党の最後の切り札と見られたネーメットも、多くの点で勘違いしている。前体制最後の首相としてベルリンの壁崩壊に寄与した人

物というのが彼の評価だが、これは過大評価。彼は一九九〇年の総選挙では、社会党を離れ、無所属で当選したが、これは社会党では勝てないというしたたかな計算にもとづくものだ。その後すぐに欧州復興開発銀行（EBRD）の副総裁に任命され、以後一〇年、ハンガリーの政治から離れた。子供たちもすべてイギリスとアメリカの学校へ通わせ、ハンガリーとの接点はない。甘い汁の吸い通した。

もともと、ネーメットは経済大学のエリート学科（国民経済計画学科）から計画庁研究所に進み、そこから労働者党書記局に入った。党内に能力のあるエリートがいなかったことで、瓢箪から駒のように一躍八八年一月に首相に任命され、その後の歴史の役回りを与えられた。党組織を引っ張ってきた経験はないから、泥臭い仕事ができない。若くして祭り上げられたことで、錯覚が生じた。

歴史の波のなかで、能力とは無関係に、人に役割が与えられていく。森首相がその典型だ。ネーメットにしても、自分の能力と実力で頂点に立ったと考えたとしたら大間違いだ。要領の良い立ち回りで、その役割を得たというのが真実だ。

EBRD 副総裁を辞める直前、すべての党派が賛成してくれば、グンツイ大統領を継いで大統領を引き受けても良いと考えていたようだが、この発想などは政治局員だった当時の発想とそれほど変わらない。世間はそこまで甘くない。さんざん外国で甘い汁を吸って、そこから大統領へ横滑りするなど、あつてはならないことだ。

その芽がなくなった頃に、EBRD からハンガリーに戻ってきた。EBRD 時代の高給の蓄えや年金があるから、生活に何の不安もない。後は社会党の首相として、再び表舞台に立つことを考えているようだが、

ここでも問屋が簡単に卸してくれないことが明らかになった。

政治は力だ。一〇年もハンガリーを空け、党組織を掌握していない人物がどうやって社会党の頂点に立てるのか。コヴァチがネーメットに地位を譲る理由がない。そう考えていたとしたら、政治家として失格だ。その面では加藤鉦一と似ている所がある。

それでも、野中・青木・亀井・村上・森などの老人政治屋が支配するより、加藤・鳩山・菅などが支配する政治に期待できるのと同じように、ハンガリー社会党でもコヴァチが率いる昔日の人々が支配するより、ネーメットを担ぎ上げる若手の方が増しなことは言うまでもない。ただ、社会党の有力な若手経済学者が皆、腐敗に填ってしまい、新鮮さを打ち出せない閉塞感は強い。支持率は高くて、悩みが多い社会党である。

追記一… 新年に入り、オルバン首相は各大臣の外遊計画と費用の公開を求めて、政府監督庁に外遊費用の調査と情報公開を命じた。ターゲットはトルジャンである。トルジャンの所為でFIDESZの連立政権の評判落ちて、次の選挙が危うくなっている。ここは政権にたいする批判をトルジャンに集中させて、FIDESZの潔白さを浮き彫りにした方がベターだという政治判断だ。

メディアが早速報じたところによれば、農業省が最大の外遊費用を使っており、外務省より多い。トルジャン大臣は就任して一年半の間に、一〇〇ヶ国ほどを外遊しているという。外遊に利用した旅行社はすべてOTP旅行社。トルジャンの息子が顧問になっている。いったいどれほどの費用が使われたのか、納税者は知る権利があるということ、二〇〇一年一月の政治舞台の幕が開いた。

追記二… 一月四日、トルジャン大臣は三週間の南米外遊に出かけた。この外遊もそれほど意味があるとは思えないが。外国から電話で、トルジャンを批判しているブダペスト市の小地主党の委員長を解任し、幹部会を解散させた。国会議員副団長をも解任した。

しかし、まずいことに、小地主党の副委員長で、長年トルジャンと行動をともにしてきたラーニイが、不祥事を含めた一連の事態の責任をとって、自ら副委員長のポストを離れることを表明した。

アンタル政権時の分裂騒動に続き、再び小地主党の内部分裂が始まった。トルジャン党では小地主党が消滅するという危機感から、解任されたグループは反トルジャン連合を組む様相。

追記三…トルジャン外遊中に、腹心の副幹事長が自ら辞任を公表した。その理由は、一月初めにグドゥルーで開催された幹部会の議事録の改竄を求められたからという。トルジャンは外遊直前に、幹部会の決定として、ブダペスト党支部執行部の解任を伝えた。しかし、幹部会でそのような決定はなされていないという。

トルジャンは急遽、外遊から一六日に帰国することになった。地方の党幹部はトルジャンを支持し、都市の幹部は反トルジャンになっている。このままでは来年の選挙で、党が消滅するという危機感が強い。

しかし、トルジャンあつての小地主党。トルジャンと心中するか、反トルジャンで最後の賭にでるか、小地主党の国会議員は、最後の決断が迫られている。

## 「第八回日本語スピーチコンテスト」入賞者の原稿

二〇〇〇年一月十五日、日本大使館講堂において、大使館、国際交流基金ブダペスト事務所、国際協力事業団ハンガリー駐在員事務所及び日本航空ウィーン支店の共催により、第八回日本語スピーチコンテストが開催され、高校の部一〇名、大学の部六名の学生が出場して熱弁をふるいました。

会場は一五〇名ほどの聴衆で埋められ、学生たちのスピーチに加え、日本語を学習している児童、学生たちによるアトラクションや昨年の優勝者による日本訪問の体験スピーチなども発表され、大盛況のうちに終了いたしました。

そのご報告の意味も込めて、ここに高校の部、大学の部それぞれの一位と二位を獲得した出場者の原稿をご紹介しますと思います。

### 高校一位

#### ポストカードの男の子

サボー・エンチ

その日は雨がふっていました。私は散歩をしていました。あるみせに入るとむりょうのポストカードがありました。私はそれを手にとりました。そのポストカードにはアフリカのおなかをすかせている小さい男の子がうつっていました。その男の子の手にはからっぽのおさらがありませんでした。かれの目は「食べものがほしい。」と言っていました。私はそれを見てとてもこころがいたくなりました。そのポストカードを見る前にはサンドイッチを食べていました。でも半分ごみばこにすてていました。私はそれを思い出しはしゃしくなりました。わたしたちは口ボットのよ

うに朝起きてしごとや勉強をしてすごしてごはんを食べてねます。でも同じときにどこかでおおぜいの人が食べるものがなくてしんでいきます。わたしたちはよるねるとき「明日は食べることができるのだろうか。生きることができるのだろうか。」とかんがえている人がいるのです。食べものがたくさんある国では毎年なんトンものこむぎこやいろいろな食べものを海へすてっていると聞きました。でもわたしたちはどうしてこの食べ物を食べるものがない国の人にあるものを食べることができるのか。食べるものがない国では食べるものがないので、たくさんびょうきの人がいるそうです。食べものがある国はこれまでもたくさんくすりをおくりましたがわるい人がこれをぬすんでいけばどうってお金をもらおうそうです。でもわたしたちはどうしてこれをちゅういできませんか。またアフリカではしゅぞくのせんそうがたくさんあるそうです。だから人はうちからにげ

て、はたけをたがやすことができない  
いそうです。わたしたちはどうして  
これをふせぐことができませんか。  
また食べるものがない国はしゃっき  
んがたくさんあります。でもお金が  
ないのでかえすことができません。  
でもどうしてわたしたちはしゃっき  
んをわすれることができませんか。  
わたしたちは食べるものがなくてこ  
まっている人をたすけたいです。で  
もわたしのちからはとても小さいで  
す。一人ではほこりのようです。わ  
たしたちが少しあつまってもまだパ  
ンくずのようです。でももっともつ  
とわたしたちがあつまればパンくず  
は一まいのパンになります。そして  
一まいのパンがあつまれば大きなパ  
ンになります。わたしはわたしたち  
が大きなパンになるようもつといろ  
いろなことを勉強しなければならな  
いと思います。あのポストカードは  
わたしのたからもの一つになりました。  
そしていまもわたしのへやの

かべにはってあります。わたしはこ  
の男の子をたすけることはできませ  
んでした。でもわたしはじぶんをか  
えることができました。ありがとう  
ございました。

「明日はどんな一日にしようか」  
とかんがえます。しかし同じときに。

## 高校二位

### ぶどうのしゅうかく

スーチ・エディット

ぶどうのしゅうかくは、ハンガリ  
ーのゆうめいはしゅうかくのひとつ  
です。

ぶどうのしゅうかくは、ふつう九  
月のおわりか十月のはじめにありま  
しが、てんきにさゆうされることが  
おおいです。おおきなぶどうばたけ  
をもつ、ぶどうさいばいかたちは、

おもにトカイやバダチョニにすんで  
います。ぶどうさいばいかたちは、  
てんきのよしあしにかかわらず、か  
ていでぶどうをそだて、ワインをつ  
くっているひとたちよりも、よいも  
のをつくらなければなりません。

わたしのかぞくも、おおきいぶど  
うばたけをもっています。まいとし  
あきになると、しんせんなぶどうを  
しゅうかくすることができません。こ  
のとき、りょうしん、そふぼ、きょ  
うだい、しんせきのぜんいんがあつ  
まります。そして、それぞれがバケ  
ツとはさみもち、ぶどうだなのれ  
つへはいつていつて、ぶどうをつみ  
ます。それから、二・三人の男たち  
がぶどうしぼりきのほうへ、ぶどう  
のはいつたかごをもつていきます。  
そのしぼりきで、ぶどうえきをつく  
ったあと、はっこうさせるとワイン  
ができるのです。

ぶどうのしゅうかくは、つかれる  
しごとのようですが、むしろ、たの

しいしごとです。わたしたちは、たくさんわらって、はなし、ときどきうたいます。よるになると、みんなでいっしょにごはんをたべます。そして、そのあと、それぞれのうちへかえるのです。

わたしは、ぶどうのしゅうかくは、かぞくぜんいんがいっしょにすごす、ひとつのよいぎょうじだとおもいます。なぜならば、さいきん、せかいじゅうのひとがみな、それぞれいそがしくはたらいているからです。そして、また、みながよいきもちでいることは、とてもたいせつなことだとおもいます。すくなくとも、しゅうかくのひ、みなはともけんこうで、たくさんのピタミンをとることができし、かごをもったり、たったりしゃがんだりして、たくさんうごくこともできるからです。

つまり、ぶどうのしゅうかくは、すべてにおいて、よいことだとおも

います。わたしはみなさんに、もし、ぶどうのしゅうかくにいくきかいがあつたら、のがすことなくいくことをおすすしめします。そして、みなさんに、このようなきょうじにさんかするきかいがあたえられることをねがっています。

## 大学一般一位

### 井の中の蛙大海を知らず

レンドバイ・マールトン

スピーチコンテストで何を話そうかと考えたとき、まず頭に浮かんだのは、私と日本文化との出会いと、ミレニウムについてでした。

私は子供のころから異文化に興味があり、いつか極東の文化やことを勉強しようと思っていました。

不思議なことに、日本と出会ったのはキリスト教を通してでした。日本の文化や言葉について、私にはじめて話してくれたのはキリスト教の司祭でした。彼は三〇年間日本に住んでいました。戦後、日本人が大変苦勞しているのを見て、日本国民を大いに尊敬したので、名前をカナザワ・ヨーゼフに変えました。カナザワさんは、人が国によって生活や考

え方が違うということを理解すべきだと思っていました。

カナザワさんの大好きな話の一つは、のこぎりの話でした。日本人がのこぎりを使うとき、ハンガリー人とは反対に、引く時に力を入れます。カナザワさんは家を建てるとき、大工にたのんで、ためしにのこぎりを使って見ました。しかし、押して使ったので切れません。すると大工がこれを見て、「何をしているんですか。のこぎりを体の方に引く時に力を入れなさい。」と言いました。そこで引いてみると、こんどは切れました。のこぎりの歯が反対のほうにいたのであったからです。でもそのあと、猛烈な論争になりました。カナザワさんは、「ハンガリーではのこぎりを押して使います。押したとき、鉄の部分がしならないようにフレームがついていて体全部の力を入れることができます。」と言いました。すると日本人は「ええ？そんな話は聞いたことがないよ。そんなふうには使えないよ。」と答えました。そして最後まで決着がつきませんでした。

日本人とハンガリー人のやり方はまったく違います。たぶん理由があるのででしょう。むかしから日本人は、いつも数人で一緒に働きます。いつも共同作業をしてきた日本人にとって、一人でのこぎりを使うときにも引くようになったのは、自然なことかもしれません。

それでは、これが西と東の関係にどう関わっているのでしょうか。もし、日本人とハンガリー人の大工が二人一緒にのこぎりを使えば、きつとけんかが始まります。日本人でもハンガリー人でも、職人は自慢の腕をもっていて自分のやり方を譲りません。しかし一人で行うのは、とても時間がかかって大変だということが、そのうちわかってきます。時間がかかっても、ゆっくりと相互理解がうまれてくると思うのです。国際

関係においても共存していくには相互のやり方を理解していくことが必要です。「井の中の蛙大海を知らず」では国際社会を生きるはいけないと思います。

ハンガリー人は東からきました。千年前にセント・イシュトバーンがハンガリー国家を建設し、国民を統一して、ハンガリーはヨーロッパのキリスト教文化圏に入りました。その後、何世紀にもわたってハンガリーは西ヨーロッパのとりででした。しかし、二一世紀からのハンガリーの役割は、東と西の掛け橋になることだと思えます。



## 大学一般二位

### 共同生活のモットー

#### 寛大に・我慢して

グルベ・カーロイ

皆さん、こんにちは。私は今回、共同生活のとても大切な事柄について、お話ししたいと思います。私は最近四年間にもう一〇回も引越しをしました。ですからいろいろな所に住んで、共同生活についての経験が少し身についただろうと思います。誰かと一緒に住むためには、次の覚えておかなければならない事があります。『寛大に・我慢して』理想的な場合はお互い住んでいる人同士、このように考えています。

大学の寮に入る時は、入寮者は多くの場合一緒に住む仲間を自分で選ぶわけではありません。ですから寮に入る学生たちにとって、皆新しい

ルームメイトとの、新しい生活が始まる事になります。私をはじめて実家を出て寮で生活を始めたのは約四年前でした。その頃は他の同級生と同じように、毎週週末だけは家に帰って、前と同じように家族と一緒に過ごしていました。けれどもしばらくするとそれ程ひんぱんには帰らなくて、寮は本当の私の家のようになりました。ですから他の学生たちと共に住んで勉強したり遊んだりする上で、はじめに述べた『寛大に・我慢して』という言葉を自分に言い聞かせる事が、私にとって役に立ちました。

しかしこの助言はどれ程使えるのか、というのは興味深い問題です。なぜなら私が住んでいた事のある寮で面白い習慣があります。それは酔っ払った学生たちが朝の三時や四時頃、つまり他の学生が寝ている時間に、『寛大に・我慢して』と大声で叫んだり歌ったりする事です。この態

度においては、先程述べた助言が役に立っているでしょうか。確かに一人一人が自分の事だけを考えたなら、以上の事件のような事はしばしば起こるでしょう。ですからこの『寛大に・我慢して』という事と共に、『他人（ひと）を邪魔しない』というのでも考えなければなりません。

しかしこのことを思い過ぎて、『寛大に・我慢して・他人を邪魔しない』を真夜中に叫ぶ、調子にのつた学生が現れるのも心配です。学生の皆さん、飲み過ぎた時も以上の事を気を付けましょう。

それではどうもありがとうございます。

## 補習校便り

### 補習校日誌より

(一〇月～一二月)

今年、補習校では近年稀にみる転出入児童があつた。毎月転出入があつた。一二月末現在、四月から本校への転入学者は二二名、転出者二二名にものぼる。過去の記録を遡ると、この数は、二年から三年分にあたる。さらに、二〇〇一年一月～四月の間に一〇名を超える転入者、一〇名程度の小学部一年への入学者がある予定で、二〇〇一年四月には、補習校はじまって以来の最大の児童生徒数になるかもしれない。少なくとも、六〇名は超えるものと思われる。この数は、中近東、アフリカにある日

本人学校、近隣のプラハ、ブカレスト、ウィーンの各日本人学校よりも多くなる予定である。

一〇月六日(金) 補習校裏のイスラエル大使館に向けて、アラブの人々の抗議デモがあつた。コーランの音楽を流しながらの怒りの声に、圧倒された。モーリツジグモンド高校では、授業にならなかつたようだ。この日を境に補習校では、万一のこ(爆弾テロ等)を考へて、休み時間、校舎外での活動を自粛している。子供達からは、早く外で遊びたいと声が、日増しに高まっている。

一〇月七日(土) 秋のバス遠足で、シユカンゼン(野外民俗博物館)に行った。陶器作り、おもちゃ作りのプログラムで楽しい遠足だった。約半数の保護者が参加してくれたことが、大変嬉しかった。

一〇月九日(月)～一四日(土) 補習校では、年三回授業参観週間がある。一週間にわたる授業参観を実施している学校は、まずないであろう。この期間、先生方の精神的、肉体的疲労は日増しに大きくなる。もっと、気楽にとは言うものが見られるプレッシャーからは、なかなか逃れられないようだ。

一〇月二五日(水) 講談社の荒川氏から図書(七三冊)の寄贈があつた。早速、お礼の手紙を送ると、二月に再寄贈してくれることになった。感謝!

一〇月二六日(木) 文部省援助の教材が到着。本年度は、ソフトボール用具一式、ソフトバレーボール、竹刀等主に運動用具を購入した。これで来年度の日本人会ソフトボール大会に向けての準備は万端。

一〇月二十八日(土)～二十九日(日)  
現地学習会。今年は大学の街、デブレツェンに。

一〇月三十一日(火) 補習校ホームページの更新。是非機会があれば見て欲しい。(三ヶ月に一度更新)  
URL:<http://www.hoshuko.hu>

十一月一日(水) 今年から正式にハンガリーでは先祖を敬う日として、祝日になったが、今年は平常授業を実施した。来年度は休日にする予定である。

十一月七日(火) 服部譲二さんを囲んでのトークアンドミニコンサート。間近で服部さんの演奏を聴き、素晴らしい体験ができた。

十一月十八日(土) 補習校文化祭。  
今年は、児童生徒の作品展示も併せて行った。たくさん方が参加してく

ださり、本当に有意義だった。小学部三年生のたこ焼き屋さん(たこなし)に人気が集まっていたようだ。

二月八日(金) 昨年もちつきの臼が壊れた。転出した谷野さん(スズキ)より寄贈の申し出があった。一〇〇年前の臼が到着。ハンガリーの税関での分類が、その他の石になっていた。これで、二〇〇一年一月のもちつき大会ができそうだ。運搬、搬入等に尽力していただいたマジヤールスズキさんに、ありがとうございました。

二月九日(土) 日本人会総会。  
初めて出席し、わきあいあいとした雰囲気为本当に楽しかった。マジックショーの演出も見事であった。抽選で補習校の先生が当たり過ぎてひんしゆくをかったかもしれない。

二月十一日(月) 俳句審査会。

糠沢大使、越智書記官が長時間にわたり、慎重に審査し、併せて、俳句の作り方の指導も受けた。

二月二十二日(金) 第二学期終業式。新学期開始は、一月八日。

## 補習校児童生徒 俳句集

### (小学部4年～中学部)

今回の作品は、過日ハンガリーの国際学校俳句コンテスト日本語部門に出品した作品を中心に掲載しています。補習校では、一月二七日の俳句カルタ大会に向けて、休み時間に練習をしています。子供達は有名な俳句をかなり知っていますが、いざ俳句を作るとなると、悪戦苦闘していました。文章みたいなもの、子供らしいものなど盛りだくさんです。このコンテストを機会に、俳句作りに取り組み続けていきたいと考えています。

桜坂 いつかだれかと 遊びたい

四年 上原康士朗

桜の木 すずしいかげで ピクニック

四年 コズマ・ロバート

お花見は 桜ふぶきの 音がする

四年 小野田 陽

朝日浴び ダイヤのような つららかな

五年 大河内 薫子

冬の日に みんなでつくる 雪だるま

四年 川辺 佳

霜柱 ふんでジャリジャリ 楽しい

な

五年 川本 彩友美

冬の朝 雪が一面 銀世界

四年 小山 健治

雨上がり 風が落ち葉を 吹き飛ばす

五年 佐藤 美南

サンタさん 夏の時には 何してる

四年 高畠 暖

秋の夜 お月見団子 食べまくり

六年 岩谷 篤

春の日は 鳥がたくさん 鳴いてい

る

陽が光る 子供が遊ぶ 夏が好き

四年 古川 友梨

六年 ヴェシエイ・ノーラ

ドナウ川 雪どけ水で あふれそう

四年 吉原 翼

六年 ヴェシエイ・ノーラ

雨が降り 木の葉が落ちる 秋が好  
き

六年 ヴェシエイ・マールタ

雪合戦 かげにかくれて ふい打ち  
だ

六年 太田 寛朗

はつもうで おみくじひいて 大吉  
だ

六年 小野田 優

雪達が 辺りを白く そめていく

六年 近藤 麻実

風車 こがらし吹いて 回り出す

六年 柴田 芳子

夏の海 サンゴショウが 空のよう

六年 手島 慎平

夏の空 うさぎのような 雲達よ

六年 橋本 尚久

秋が来て あつという間に 過ぎて  
いく

六年 秦 弘典

桜の芽 キミも新たに 仲間入り  
だ

六年 藤谷 有希子

桜見は 心も清く 優しくね

六年 古川 裕也

初氷 はく息白く 冬の朝

六年 横山 知沙

冬景色 家族みんなで 鍋支度

中一年 上原 彩香

秋遠く のびて倒れて 家の陰

中一年 木村 祐太郎

雪積もり 夜空の星も 風邪をひく

中一年 橋本 輝久

秋の夜 読書にふけり 夢の中

中二年 賀澤 美樹

静けさや 蟋蟀の声 響く夜

中二年 佐分利 翔

年の暮れ 炬燵囲んで 家族団欒

中二年 柴田 琢

桃の色 雪降るように 消えていく

中二年 手島 一平

雪かきを 家族総出で 励む朝

中三年 近藤 千洋

来ぬ人よ 葉は落葉へと 身もこが  
れ

中三年 秦 耕子

葉の上の 真珠の露から 光漏れ

中三年 ヘルマン・アンナ

## 随想

### 指揮の風景

盛田 常夫

#### 弦出身指揮者の癖

この一月、バイオリンリストの服部譲二さんが日本人補習校を訪れてくださった。気さくに子供たちに語りかけ、バイオリンを習う生徒のレッスンまでしていただいた。芸術家に気むずかしい人は多いが、お兄さんのような感じで好感が持てた。

幼い頃にウイーンに移住し、日本語に苦労されたようだ。子供たちへのお話はつきり音楽の話題だと思っただけだが、終始、言葉の難しさを繰り返して語られた。音楽家として生きることや、小学・中学時代にどのように訓練を積まれたのかを、子供たちに語って

いただきたかった。

今回のブダペスト訪問では、ソリストとしてだけでなく、MAV楽団を指揮された。ちょうど翌日には小林研一郎さんの演奏会があり、指揮振りを比較できるので、興味深かった。というのも、バイオリン出身の指揮者にはある特有な癖があるという持論をもっており、それを服部さんの指揮でも確信したかったからだ。

ロシア物やワーグナー物の指揮で活躍しているシモノフは国立フィルの客演指揮者でもあるが、彼の指揮には弦楽出身者（と確信しているが）の典型的な癖がある。オペラハウスで振る時には見えないが、リスト音楽院では良く分かる。どんな長い楽章でも、彼はきちんと揃えた二本の足を指揮台に貼り付けたように、一歩も動かない。三〇分だろうと四〇分だろうと、彼の足は微動だにしない。あたかも足裏に糊が付いているようだ。足を完全に固定し、上半身の振りだけで指揮を

する。確かめたことはないが、彼はバイオリン出身に間違いはない。

服部さんも、多分、そうだろうと予想していた。案の定、シモノフほどに完全ではないが、足の動きは最小限で、上半身を使う指揮だった。さらに特徴的なのは、手首を使わず、弓を弾くように指揮棒と腕が直線に振られることだ。これも弦出身者の特徴だと思う。このような指揮の場合には、腕と脇におおきなスペースができる。相撲で言えば、脇が甘い状態になる。

ほとんどのスポーツでは脇が甘いことが致命的な弱点になる。指揮でそれが致命的になるとは思わないが、脇が締まっている振り甘い振りでは、外形上は大きな違いが出るし、脇が甘い状態だと手首をうまく使えないと思う。指揮の空間を狭めるだろう。

もう一つ観察すると、服部さんはアークセントを入れる時に、足に動作が入る。しかし、前方に踏み出すのではなく、左足を後ろに蹴る。自分に勢いを

つけるという意味で良いが、これは楽団員に伝わらないし、観客には不自然な動きに見える。ここらはまだ改良の余地がありそうだ。

### 百戦錬磨の小林

これに比べると、百戦錬磨の小林はさすがに指揮のプロだ。団員に向かって振っているのか、観客に向かって振っているのか分からないほど、「指揮を見せる」という意識と技量に富んでいる。将棋を暗譜で指すという得意の記憶力で、譜面なしで振るところも観客受けする。聴衆相手に指揮する指揮者は、世界を見渡しても、そうたくさんはいないだろう。

指揮者としてはまだ駆け出しの服部さんと比較して悪いが、まず足の動きが違う。小林は式台のスペースを全部使って動く。アクセントをつける時には、片足を思い切り踏み出す。もちろん、足の踏みだしと上半身の動きが一体になっていないと様（さま）にな

らないが、彼の場合にはドーンという感じで体全体を前方に移動させる。

上半身の動きはもちろん違う。小林は弦出身者のように、上体だけを動かして指揮をすることは稀だ。指揮棒を下げて、腰を捻ったり肩を上げ下げしてリズムをとる仕草は得意なポーズだが、これは指揮というより、観客向けのサービスだ。それ以外に上体だけを使うことはない。逆に、上体を固定し、脇を締め、肘から手首の動きを自由にしている。

脇を締め、体の前でタクトを捌く。この二つの動作、つまり脇を締める、前で捌くという動作は、スポーツでは普遍的に重要だ。ほとんどすべてのボールゲームでは、食い込まれる前に、前で捌くことがポイントになる。脇が締まっていけないと、これができない。指揮ではこの二つの動作ができていないと、手首が柔軟に使え、振りのしなやかさが出てくる。また、振りのスピードを維持できる。小林の指揮のダ

イナミックさの源はここにある。

各種の計算され定形化された動きを瞬時に組み合わせることで、小林独特の指揮の世界が創り出される。もつと細かく観察すると、小林は、一楽章に最低一度は、スモーキングの左裾を内側から振り払う。指揮者の動きをよりダイナミックに見せる演出だ。そうした即興的な効果も聴衆の集中力を維持させ、団員に通常の練習時とは違った高揚感を醸しだし、ライブとして魅力を造り出す。聴衆を意識した小林ならではの世界である。

### 永遠のテーマ

小林の後を継いだコチシユはまだ指揮者としては駆け出しだ。動きがどうもぎこちない。この差は永遠に埋まらないだろう。もちろん、小林は指揮のプロで、コチシユはピアノリストだから、指揮振りを比較するのはコチシユに公平ではない。とはいえ、この二人は指揮者としてちょうど正反対に位

置するので、二人の比較は指揮というものをどう考えるかという普遍的なテーマに重なりあっている。

小林は本番重視、ライブ重視で、指揮者が主役かと錯覚させるほど、「指揮者を見せる」ことに気を配っている。これはレコードやCDでは絶対に味わえない世界であり、それはそれでライブ音楽の重要な要素を構成している。

他方、小林は本番や気持ちを重視する半面、楽団員の技量についてはそれほど口を挟まない。客演で振る時には、短時間で楽団員の技量が向上することとはありえないから、指揮者の仕事はどれほど団員の潜在能力を發揮させるかにかかると。小林の魔術的な振りが、団員の集中力を高め、高揚感を醸成し、最大限の潜在能力の發揮を可能にする。

めに、厳しいレッスンを課さなければならぬ。コチシュはこれができる。小林にはできない。

確かに厳しい練習を積むことで技量は上がる。技量が上がらないことはレコーディングもできない。しかし、そのことと、音楽を芸術的な高揚感として、聴衆に伝えることはまったく別のことなのだ。ライブとレコーディングとの本質的な違いである。政治家の演説をそのまま原稿にしたのでは論文にならないが、論文を読み上げれば演説になるわけでもない。あきらかに演説と論文は別の実在だと考えなければならぬ。同じことは大学教授の講義と論文の違いについても言える。いくら高名な学者でも、講義が下手で聞くに耐えない先生はいっぱいいるし、その逆も言える。もっとも大学教授で聴衆を惹きつける講義をする人は稀だが。

しかし、もし指揮者の使命が、楽団員の技量の向上にあると考えたら、小林は指揮者として失格だろう。コチシュがやっていることは、まさにそのなのだ。レコーディングで指揮者は黒子になる。見えるものは音だけだ。そこには純粹に楽団員の技量が反映される。いくらライブで魔術的な雰囲気を出しても、楽団の力量はレコーディングであからさまになる。だから、指揮者は日頃から、団員の技量を上げるた

講義をすることと論文を書くことがまったく違った行為であり、実在で



あるように、音楽の世界も同じだ。ライブは講演で、レコーディングは論文だ。ライブにはやはり小林的な世界が不可欠である。

理想から言えば、コチシュが鍛えて、小林が仕上げをする。これが一番良いことは誰もが分かる。しかし、世の中そうはうまくいかない。それぞれに自分の世界があり、主張がある。最良のものを組み合わせるといふ最適結合が難しいのは、何も音楽の世界だけではない。

互いに欠けているものを補っているのが望ましい。それがマネージメントであり、国立フィル支配人コヴァチ・ゲーザの腕の見せ所になる。

### 指揮者冥利

しかし、いくら人気のある指揮者でも、空港への到着に国立合唱団のコーラスで迎えられるという指揮者は、世界広しと言えども、小林以外にないだろう。それほどまでに、当地ハンガリ

ーでは小林が慕われている。聴衆を良く観察していると、小林が振るプロگرامに必ず顔をだす熱狂的な常連がいる。怪しげな中年の美貌の女性もいるが、小林にまつたく記憶はない。今はもう一年に一回しか見られないから、その熱狂ぶりはまるで日本の人気タレントを迎えるようなものだ。

「あの熱狂振りには指揮者冥利に尽きますね」と確かめたが、小林の想いも同じだった。ここ数年、いろいろな経緯はあったが、何があったとしても小林にとつてこの土地はデビューを飾った永遠の聖地。足を向けて寝られるはずがない。

コチシュに欠けているものを補う。それがハンガリーへ恩を返す小林の使命のような気がする。「別れた女房と年に一度の逢瀬も良いが、たびたび会ったのでは白けてしまう」というが、年に二〜三度来ても、罰は当たるまい。せめて半年に一度は、あの類稀なる指揮を見て、聴衆の熱狂に触れてみたい。

## 二 世紀を創ったハンガリー人 列伝（その四）

### ポール・エルドウシュ

#### （エルドウシュ・パール）

マルクス・ジョルジュ著

#### 生い立ち

「もし異星人が地球とコンタクトしていたなら、ポール・エルドウシュこそ、わが惑星の大使として適任だった。異星人たちは彼の非地球的な知能を高く評価しただろう。彼は宇宙の共通語、つまり数論を話すことができた」と、*The Economist* 誌の追悼文は記している。*The Economist* は科学雑誌でなく、きわめて地球的な問題を扱う雑誌であるが、エルドウシュの輝かしい活動領

域を評価した。

彼はブダペストで生まれた。両親とも数学教師で、リポート・フェイエルやテオドール・フォン・カールマーンとも面識があった。父は *Engländer Janos* として生まれたが、*Itös* に改姓した。彼は一九一四年に第一次世界大戦に加わり、六年間、ロシアの捕虜になった。母は学校で教えていたので、ポールの面倒は乳母が見ていた。この乳母のお陰で、三歳の時にはドイツ語が話せるようになっていた。もうこの歳で数が数えられ、計算することもできた。四歳で四桁の数字の乗算を暗算でき、たし、負の数も発見した。「ある物の温度が摂氏百度で、これが二百五度冷やされると、温度は零下一五度になるよね」と。両親がポールを家で教育した。ポールが一歳の時に、父は「連続する素数の間には、不規則で大きなギャップがある」と話した。

一九一九年、第一次世界大戦が終わり、ハンガリーで右翼の軍事的なテロが続いていた時、母と一緒にアパートのバルコニーからユダヤ人への暴行を目の当たりにした。母がキリスト教への改宗を思いあぐねているとき、六歳の子供がこう言った。「お母さんがそうしたいならそうすれば良い。僕は生まれた時のままで良い」。

一九三一年、青年ポールはブダペスト大学に入学した。そこで、ポールはリポート・フェイエル教授から大きな影響を受けることになった。一九三二年、ポールはチェビチエフの定理「もし  $\epsilon > 0$  であるなら、 $\epsilon$  と  $2\epsilon$  の間に素数が存在する」の簡単な証明を与えている。この論文は一九歳の時に出来上がったが、数論でブダペスト大学の博士号を取得するには二一歳の卒業まで待たなければならなかった（一九三四年）。ベルリン大学の有名な数学者イサイ・

シユール (Issai Shur) が「ブダペストの魔術師」と名づけた時には、パールはまだ二歳にもなっていない。この成功がマンチエスターからの招聘となった。

### 放浪する数学者

「彼は絶え間なく放浪するユダヤ人」で、二代より同じベッドで続けて七日以上は寝たことがなかった。だから、数学者の間では風聞があった。「もしエルドウシユと会いたければ、今いる宿でじつと待っていてごらん。そのうち現れるから」。

彼は半分ほど空のトランクを携えて旅行した。あらゆる生活の重荷から解放されるように、子供も、妻も、住宅も、運転免許も、定職も、小切手も、替えの靴もなしで放浪した。世界中に散らばっている友人や門下生が、食べ物や宿を与え、お金を貸し、洗濯したり衣服を買ったり、税金を払ったりした。パールは興味深

い問題を考え付くことで彼らの好意への対価とし、逆に彼の数学問題を証明できた人に百ドル渡していた。

「別の宿で、別の証明を」と言うのが、絶え間ない旅行の口癖だった。新しい場所に着くとすぐに友人に電話して、「僕の頭脳が街に来ましたよ」と言い、閃いた問題を提起するのが常だった。ババイはこう書いている。「エルドウシユは簡単に記される難問を見つけ出す、無尽蔵の泉だった」と。サウンダーズ・マクレインが、「科学は良い解答のなかにあるのではなく、難しい設問のなかにあるというのがハンガリー人の見解らしい」と言うのも、エルドウシユを念頭においてのことだ。エルドウシユが数学の最高の賞、ヴォルフ賞 (Wolf Prize) を受賞した時だ。彼は五万ドルの賞金を、七二二ドルだけ残り、残りを奨学金や数学コンクールに配ってしまった。彼は問題提起のプリンスだった」

とは、*The International Herald Tribune* の追悼記事である。

彼が唯一常用していたものはコーヒーと真理である。というのも、彼によれば、「数学者とは、コーヒーを定理に変える機械」だからである。生涯を通して、エルドウシユはほぼ五名の共同研究者と千五百本近い論文を書き（毎月一、二本）、彼の死去に際して、世界中の子弟によって百以上の論文が師を偲んで出版された。*Mathis* の追悼文は、彼を二世紀のオイラーを名づけた（一八世紀に生きたオイラーは彼をはるかに上回り、その全集は二巻にもなる）。エルドウシユは我々に数学の美を教えている。「定理は簡単に理解できる言葉で簡潔に表現される場合に、美しい」。しかし、その証明には長い複雑な論理の連鎖が必要になる。彼の薫陶を受けた子弟たちにも、「すべての偶数が二つの素数の和であることを証明せよ」、「差が $n$ の素数の

対が、無限に存在することを証明せよ」という具合に問題を提起するのが常だった。

すでにギリシア時代に、素数は無限に多く存在することが知られていた。素数の大定理によれば、「 $n$ 」の範囲における素数の平均密度は、およそ  $\frac{1}{n}$  である」。この証明は、すでに一九世紀末に複素関数の技法を使って証明されていたが、エルドゥシュとゼルベルグは初等数学を用いて証明し、それが彼の名を世界に広めることになった（証明技法は初等的であるが、複雑である。筆者の学生時代に、教授はこの証明を一学期かけて教えてくれた）。

## アメリカへ渡る

エルドゥシュの数学的貢献は、組合せ理論、集合理論、数論、確率論、ランダム・グラフ、統計的集団理論に及んでいる。離散数学では、純粋な究極の論理を追求したが、その定

理群は彼の弟子たちの手によって、社会全体に利用される価値あるものとなった。エルドゥシュはコンピュータを使わなかった。逆に、コンピュータが彼を使った。つまり、彼の手法や定理を使ったのである。エルドゥシュによって導入された確率的数論は、「どの問題がコンピュータによって解答されるか」や、「コンピュータ・コードにおけるアルゴリズムの最小ステップ数は幾つか」というような問題を決定するのにもっとも適切であることが分かったのである。また、彼のランダム・グラフの理論は、電話ネットワークヘラウンドにアクセスするのを設計するのに利用された。

エルドゥシュがマンチェスターに滞在していた頃（一九三四・一九三八年）、他の英国の大学へ出かけたり、休みにはハンガリーへ休養に行っていた。彼はハンガリーの友人で数学者のジヨルジュ・セケレシュの結婚

式を覚えていた（一九三六年）。というのは、「この結婚式の日取りを良く覚えているのは、ヴィノグラドフが古いゴールドバッハの推測を証明したことを知った翌日だったからだ」。

一九三八年九月に運命の日がやってきた。ドイツのオーストリア占領とチエコスロバキア分割が決まった日、エルドゥシュはブダペストにいた。ミュンヘン協定を見て、彼はチェンバレンが裏切ったのだと思った。しかし、すぐに見解をより厳しいものに訂正した。「首相は馬鹿なだけだ」と。これでオーストリアを経由して英国に帰ることができなくなり、イタリア、スイス、フランス、英国と遠回りして、最後にはアメリカに渡ってしまった。最終地点はプリンストンの高等研究所だった。こうして、エルドゥシュは次の一年をアメリカで過ごすことになった。

一九四一年、ロング・アイランド

で、エルドウシユはスパイ容疑で逮捕された。ある日の夕方、立ち入り禁止の札に気づかず、アメリカと日本の友人（角谷静夫）と一緒に散歩していた。おまけに、日本人の友人がレーダー施設を背景に写真まで撮ってしまった。二人の警官がやってきて三人を逮捕し、「三名の日本人がレーダー施設を写真撮影した」と報告したのだ。エドの尋問で、どうして禁止札を見逃したのかと聞かれた。「私は考え事をしていました」とエルドウシユが言うと、「何を」と聞かれ、「数学です」と答えたという。

スタンフォード、パーデュー、フィラデルフィアがアメリカ時代の逗留場になった。エルドウシユはインシュタイン、ピーター・ラックス、ノイマンを良く知っていた。また、スタニスラフ・ユーラムとは一九三五年にケンブリッジで会っており、それ以来、英国とアメリカで集合論

の仕事と一緒にしている。そのユーラムはこう回想する。「彼は不幸で、ホームシックで、いつもハンガリーにいる母親のことを心配していた」。一九四四年、ユーラムはエルドウシユをマンハッタン計画へ誘うと思いつき、エドワード・テラー宛に手紙を書くように薦めた。エルドウシユはその手紙のなかで、戦争が終われば故郷のハンガリーに戻りたいと心情を率直に吐露したのだが、結局これが理由でマンハッタン計画には入れなかった。

ユーラムが重い病気に罹った時のことだ。エルドウシユがロスアンゼルスに駆けつけた。その時のことをユーラムは良く覚えている。

「もう退院する準備ができていて、自分でも初めて正装していた。そこに、病院の廊下の端に、エルドイシユが現れた。私が元気なのを予期していなかったらしく、叫んでこう言った。くスタン、お前が生きていて

嬉しいよ。もう死ぬんだとばかり思っていて、追悼文と共同論文を早く書かなくっちゃと焦っていたよ。これから家に行くのかい。よし、僕も一緒に行ってやるよ」と。

### アメリカ再入国拒否

ホロコーストによって、多くの縁者や友人を失った。最愛の母を見舞って、一九四八年にハンガリーを再訪した。

一九五一年、アメリカ数学会会長のジョン・フォン・ノイマンは、ポール・エルドウシユに、数論における業績を称えてコール賞（Cole Prize）を授与した。しかし、一九五四年、アメリカにマーカシー時代が到来した。アメリカ政府はエルドウシユが中国の著名な数論学者、華羅康と交信があることを知っていた。エルドウシユがグリーン・カードの申請を行うと、カール・マルクスの著作を読んだことがあるか否かを尋

問された。唯一読んだ著作は『共産党宣言』で、自分は専門家でないから良く判断できないが、マルクスは偉大な哲学者だと思う、と答えたのだ。こうして、アメリカへの再入国ビザが拒否された。それでも、エルドゥシユはアムステルダム国際数学学会に出席するために出発し、ハンガリーも訪問したが、アメリカへは九年間も戻ることができなかった。その間、彼はオーストラリア、カナダ、中国、ヨーロッパ、イスラエル、ロシアを動き回った。

政治的な環境が緩み、エルドゥシユはハンガリー科学アカデミー会員に選出され、「イスラエル居住のハンガリー国民、エルドゥシユ・パール」にハンガリーのパスポートが発給された。「鉄のカーテン時代、ハンガリーの数学界と西側の学界との強力なコミュニケーション・チャネルを確保できたのは、ひとえにエルドゥシユのお陰だった」。

一九六三年、アメリカ領事はこう伝えた。「貴方は共産主義者だ」が、これまでの功績によって（およそ一〇名の学界のメンバーで、一五大学の名誉博士）、「マルチの交換訪問ビザ」を発給します、と。

## 二世紀一 人の数学者の一人

エルドゥシユは一九三四年にハンガリーを離れ、一年（一九三八、四八年）の時間を経て、一九四八年と一九五五年にハンガリーを再訪した。以後、頻繁にハンガリーに戻り、およそ自分の時間の一分を母国で過ごすようになった。エルドゥシユはハンガリー国籍を放棄しなかった。一九五五年一月三十一日、エルドゥシユはエトヴォシユ大学の学生を前に講演し、彼のもっとも好きな（もっとも著名な）弟子たちについて語った。そして、「僕は一九一三年に生まれているんだから、これが僕の最後の講義になるかもしれない」と

結んだ（一九一三は素数だ）。一九九六年八月一日、彼はハンガリーで開かれた国際数学学会で講演している。ワルシャワで開催された数学会議に参加したエルドゥシユは、一九九六年九月二日、心臓発作に見舞われ急死した。享年八三歳だった（八三も素数）。

*The New York Times* の追悼文は、エルドゥシユを二世紀の偉大な一名の数学者の一人と紹介した。ノイマンもその中に入っている。彼らはおちろんお互いによく知っていたが、政治においても数学においても、その信条はまったく違っていた。

ノイマンは社会に順応することを望み、常時ネクタイを着用していた。エルドゥシユにとって、「私有財産は面倒なもの」で、いつもサンダルを履いていた。ノイマンは核抑止を信じていたが、エルドゥシユは平和的な人間性を信じていた。ノイマンは数学の発展に及ぼす現実世界から

のインパクトの重要性を強調したの  
にたいし、エルドウシユは究極の純  
粋性を信じた。

「数学定理は発明されるのではな  
く、発見されるものです。天国では、  
神が、すべての数学問題のもつとも  
エレガントな証明を記録したノート  
を保管しています。神が存在すると  
しないにかかわらず」。

## 追記

昨年、日本でエルドウシユにかん  
する単行本が出版されました。

ポール・ホフマン著

『放浪の天才数学者エルデシユ』

草思社、一八 円。

次のサイトを参照のこと。

[www.paulerdos.com](http://www.paulerdos.com)

[www.oakland.edu/grossman/erdosp.ht](http://www.oakland.edu/grossman/erdosp.html)

ml

[www.distributed.net](http://www.distributed.net)

## 掲 示 板

### 安心・新築・庭付フラットに

#### ついて入居募集

・ブダペスト市三区（かぎりなく二  
区に近い、日本人コミュニティの中  
心地）  
・広さ一〇〇・五平米、新築、地下  
車庫（オートゲート）、リビング、ダ  
イニング（アメリカンキッチン）、ベ  
ッドルーム2、風呂、トイレ2、庭  
付

・料金一五〇〇ドル（その他生活向  
上のための交渉可）

・新築なので完全メンテナンス、管  
理人とオーナーが日本人なので不便  
せず生活楽々安心

（日本）秋山 忍 03（3690）  
6913

s-akiyama@msh.biglobe.ne.jp

（ブダペスト）J H B O 茂木

339 9491

:motegi@matavnet.hu

「ハンガリートウデー」につい  
てのお知らせ

[www.hunlap.com](http://www.hunlap.com)（「フンジャブ・ドッ  
トコム」と覚えてください）

この秋、ハンガリー総合情報サイ  
トが産まれました。「ハンガリー  
ウデー」はビジネス、エンターテイ  
メント、生活情報など、ハンガリー  
に関心のある人や在留邦人に必要な  
あらゆる情報を集約することを目的  
に開設されました。ブダペストと東  
京から情報を発信していますので、  
ハンガリー現地の情報とともに、日  
本におけるハンガリー関連イベント  
などの情報も豊富です。

当ホームページは非営利ですので、  
商業的な宣伝も含めすべて掲載料は  
無料です（内容によって記事作成料  
を承ります）。掲載を希望される方は  
ご一報ください。

ブダペストサイド管理人 茂木 昌  
東京サイド管理人 秋山 忍

## 求人

職種：インターネット関連

インターネット上での日本人向けヨーロッパ旅行の紹介

募集要項… 日本語に自信のある方。  
インターネットに興味のある方。日常会話程度の英会話能力。年齢は三五歳ぐらいまで。経験不問 経験がなくても最初から丁寧に指導いたします。

勤務地：ブダペスト  
コンタクト：

会社名 Japanese Internet marketing

担当 小野 雄大郎

電話／Fax 204-0394 (Budapest)

履歴書は、P.O.BOX296. 9400

Sopron Hungary 宛てにも願います。

e-mailでのお問い合わせ

[jim@naruhodo.com](mailto:jim@naruhodo.com)

URL <http://naruhodo.com>

## 行事のお知らせ

### スピードスケート世界選手権

来る二月一〇日、十一日の両日、英雄広場裏のスケート場で、スピードスケート世界選手権が開催されます。両日とも、一二時から夕方まで競技が行われます。

日本からは、清水、武田の男子短距離陣、三宮、外池の女子短距離陣、長距離の白幡、女子三〇〇〇の田畑など、最強のメンバーがブダペストで戦いを挑みます。リンク条件はお世辞にも良いとは言えませんが、世界のトップスケーターを直に見るチャンスです。

チケットは、251-1222 (Globe Center)まで。一日券が一五ドルと二〇ドルです。日本選手たちにひびき所へ来たと思われないうちに、ぜひ応援だけでも頑張りましょう。

### 「生花展示会」のご案内

日本大使館の主催により、次とおり生花展示会を開催します。在留邦人及びハンガリー人の方々の作品が数多く展示されますので、皆様もぜひご覧になって下さい。

一．日時

平成一三年三月二四日（土）

及び二五日（日）

二．場所

国立民族学博物館

（Budapest V. Kossuth

Lajos Ter 12.）

### 編集室より

次号の締め切りは、三月中旬とさせていただきます。

TEL/FAX: 266-4967

e-mail: [t-morita@hungary.net](mailto:t-morita@hungary.net)